

令和2年度第1回鳥取市政懇話会 議事概要

日 時：令和2年7月27日（月）午後1時30分～3時30分

会 場：鳥取市役所 市民交流棟 麒麟 square 2階 多目的室1

出席者：【鳥取市政懇話会委員（10名）】

会長 児嶋祥悟委員、副会長 林由紀子委員

景下明美委員、国森洋委員、嶋沢和幸委員、綱本信治委員

中村克彦委員、西山信一委員、松下稔彦委員、山口朝子委員

【鳥取市】

深澤義彦市長、羽場恭一副市長、尾室教育長、浅井総務部長、乾危機管理部長、高橋企画推進部長、河井経営統轄監、岩井健康こども部長、平井経済観光部長、渡邊企画推進部次長、上田創生戦略室長、平田政策企画課長補佐

1 開会

2 市長あいさつ

委員の皆様には日頃より市政の推進にご協力いただき感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されている。近県でも増加している。本市でも4例目となる患者が先日確認された。これ以上拡大しないよう全庁一丸で取り組む。市民の皆様へも、事実に基づかない情報で行動しないよう呼びかけている。本日、新型コロナウイルス感染症についての対応と、総合計画の素案について議題にしている。色々なご意見を賜りたい。

3 会長あいさつ

本日は、2つの議題について活発な意見をお願いしたい。一つは新型コロナウイルス感染症について、二つ目は総合計画の長期ビジョンについてである。事前に資料送付しているので、それに基づいて活発な意見をよろしく願います。

4 新委員紹介

5 議事

(1) 本市の新型コロナウイルス感染症に係る現状と今後の鳥取市の展望について

(説明)

1. 鳥取市保健所への相談件数、検査件数について・・・資料1
2. 鳥取市の新型コロナウイルス感染症に係る対応及び取組・・・資料2
3. 新型コロナウイルス感染症対策に係る事業の照会・・・資料3

(意見交換)

○西山委員

4回にわたる補正予算お礼含め意見申しあげる。きめ細かく予算化をしている。心強い。大学にも学生支援で授業料の支援をしていただいている。活用して学生支援を進めたい。現在オンラインの授業を進めている。段々と対面授業が主になってきている。オンライン整備では苦労した。小中学校もオンライン整備が今後に向けて重要である。環境大学は地元の情報系の企業に協力してもらい仕組みを作り助かった。学校も独自にはオンラインの準備が進めにくい。地元の企業と協力して準備をしてほしい。

○児嶋会長

環境大学のオンライン会議に出た。とても便利である。非接触ビジネスが進んでいくのかなと思っている。

○嶋沢委員

現在の鳥取市のPCR検査の体制は一日何件か。感染者の対応、ホテル等を使用するなど鳥取でどうなっているのか。今後アフターコロナを見据えてどのように考えているか。コロナの関係で都市部から地方への移住の機運が高まっている。東京に住む若者の35%が地方移住に興味があるというデータがある。住みよいまちをアピールしながら鳥取市にきてもらいたい。企業でもサテライトオフィスを設けてオンラインでしたらよい。リモートワークも追い風になっている。受け入れ態勢を整えてもらいたい。次期総合計画の人口を増やすことにもつながってくる。

■岩井部長

PCR検査が鳥取市で何件できるかであるが、鳥取県では中部にある環境衛生研究所1か所で東中西部の県内の検査をしている。病院によっては個別に導入を図っている動きもあるがその病院の検査だけとなる。陽性になった方は、指定病院に入院してもらおう。ホテルの件だが、都会はホテルを借り上げたりしている。県が対応しているが、軽症者を宿泊対応するのも考えている。

■高橋部長

アフターコロナのこと、予算の中でも、経済的なことであるとかを支援をする。体系的にも考えていかないといけないといけない。移住定住への機運が高まっている、リモートワークについて、予算の部分で話をしたが市内を光回線で整える予定である。現在中山間地に届いてない。移住を希望される方にとって、住まいは中山間地でも、仕事は都市部との高速の通信が必要といったケースが多い。これを来年度中に全市に整備したい。それが全てではないが、現在都市部からの地方への移住は全国的な動きなので、シティセールスについて、観光だけでなく鳥取市住みたい田舎ランキング上位であることもPRしながら行っていきたい。

■深澤市長

全国的に移住の機運が高まっている。鳥取市は安全に住んでいただけることをPRしていく。

現在東京一極集中のアンバランスな状況にあると認識している。コロナの発生によって鮮明になった。国全体の大きな課題である。平成27年に地方創生で一極集中を直していく取組ということになったが、中央省庁が動いていない。アフターコロナ、ウィズコロナで新しい社会を目指していく。その一つとして地方が国全体を支えていく。そのような時代を迎えている。これを好機ととらえて取り組んでいこうと考えている。4月から毎月議会を開いて補正予算も審議いただいた。将来を見据えたものも盛り込んだ。これからしっかりと取り組む。

○児嶋会長

農業の関係も議会でもディスカッションしてもらいたい。関東、関西から農業の分野で来ていただくなどの方法もある。今度林業のパネルディスカッションを行う予定にしている。一次産業への取組についても合わせて議員の方へ聞いていただきたい。

■深澤市長

一次産業を更に大切にしていきたい。農林水産業はこれからの時代にしっかりと力を入れていきたい分野である。鳥取市765㎏のうち7割強が森林である。充分活用されていない面がある。再生がきく資源で、水源涵養、環境保全等大切な役割を果たしている。認識を共有し、議会でもそういう議論をしてもらいたい。

○嶋沢委員

東部森林組合の職員の2割がIターンで移住した方である。共通して、住みやすい所だと言っている。今後も森林を活用しながら移住定住にも貢献していきたい。

○松下委員

事業について非常にきめこまかな取組をされている。よくここまで思いつくなと感じた。感染者が出たときの市長の対応を見ていると保健師は大変だろうと思う。夜も寝ず感染者へ聞き取りも行っていると思う。敬意を表する。ワクチンと薬を待つしかないが、経済も回す必要がある。市民も慣れる必要がある。新しい生活様式、基本的なことを市民のみなさんに慣れていただく。それらの広報に力を入れていただきたい。

○山口委員

ウィズコロナはこれから1、2年続くであろうと思う。大人も心配だが、小さな子どもの育ちについて憂いている。体験機会が減った。保育士が終日マスクをして表情も見えにくい。子どもたちの発語が少なくなっていることを心配している。コロナの感染者が一人でも出ると子育て支援センターが2週間休業になっていたが、今回は開設してもらっており、英断に感謝する。提案だが、真教寺公園、わらべ館、行くところが限られているので、市から混雑状況などホームページ等で情報を出していただければもう少し活動を広げられる。

○児嶋会長

これについて鳥取市はインターネット等ですぐに対応ができるものなのか。

○国森委員

わらべ館について答える。コロナウイルスに関する対応などとしては、わらべ館も密閉した

状態であるので換気の機能をフル回転している。ドアノブの消毒等もしている。人の流れは2階の遊ぶ場所に集中する。平日はかなり空いているので、連絡していただいたら混雑状況はお教えできる。GoTo キャンペーンが始まってから人が増えた。夏休み、お盆など、県外のお客が増える。職員も注意しているが、ある程度の入館を制限することも少し考えている。

○綱本委員

県外のナンバーの方が嫌がらせ受けたと聞く。但馬の方の姫路ナンバーの人が周知されていないので周知する必要ある。

○児嶋会長

時々CATVで周知しているのではないか。見たことがある。要望しておく。

○中村委員

緊急事態宣言に対する対応で、一律同じではなく学校によって別の対応があってもよかったのではないか。小学校で分散登校の対応があったが、全ての学校が分散登校する必要があったのか。地域や公民館、現在使用されていない校舎など、他の施設を利用したり、学習方法を工夫したりする方法もあったのではないか。

■尾室教育長

鳥取市は全域で同一の対応をした。分散登校については、基本的に各クラスが20人以下になれば必要はない。全てが分散登校をしたわけではない。11校は普通通りの登校であった。他の施設を利用して分散登校できたのではないかというご意見があったが、ICT環境を整えないとうまくいかない。それが整った先には分散型の学校、授業ができる。

○景下委員

文化交流課が、外国人に対し、コロナの質問についてホームページに多言語でいち早く対応していただき感謝している。鳥取市の定額給付金の質問についても対応が良かった。もう一点、鳥取市の1例目の感染者の方の新聞記事について、県と市の初動対応が良かった、配慮してもらった、これからの鳥取市の対応についても信頼がかけるとあった。ICTの話があったが、Zoomで会議をするのが大変である。会議の勉強会など設けていただけたらと思う。

○児嶋会長

例えば、大丸の向かいにアクシスのビルがあり行ってもらって見てもらえばすぐわかる。自分もインターネットの会議について説明してもらい、助けてもらった。

○林副会長

感染者に対する誹謗中傷について懸念している。インターネットであることないこと噂が出ている。そういうことは駄目だということを鳥取市も強く言っていただきたい。砂の美術館に従事した方が泊まったホテルも風評被害に困っていた。先ほど子どもが活動制約されているという話があったが高齢者も活動できない。弱ってくる。高齢者も活動ができるようにしてあげたい。グランドゴルフ大会、みんな仲間と会って活動できた。集まりなどについて、基準があれば示していただきたい。

■乾部長

イベント、行事をどういう具合にやっていくのか。コロナシグナルオンということで、感染が確認されたらイベント 14 日原則中止、または延期としている。いろいろな業界ごとにガイドラインを設けている。原則中止、延期といってもそれらが守られていれば大丈夫なこともある。ガイドラインを確認の上、子どもや高齢者の活動をやってほしい。

○児嶋会長

4 例目の感染者が 60 代役員と出たので、社内で憶測のニュースが流れた。どのラインなら公表してもいいなどあるのか。

■乾部長

感染者の立ち寄り先については、店舗の公表基準を対策本部会議で決定している。症状が出たからさかのぼって 2 日前、これは疫学的に感染させる可能性が高いため、濃厚接触者を特定しましょうとなる。それより以前の行動歴は感染しにくいので公表する必要はないと言える。患者本人の情報はどうか、それは公表すべきではないと考える。家族も陰性であれば感染させる恐れがないので、公表しないと対策本部で決定している。

○児嶋会長

今後も感染が起きるたびに、市民は勝手に推測するであろう。今後も憶測が出る。市民教育の徹底をお願いしたい。

■乾部長

今運用しているルールを理解していただく。陽性者が人に感染させる期間を公表することで拡大防止に努める。色々な場面で理解していただく。

(2) 第 1 1 次総合計画及び第 2 期鳥取市創生総合戦略について

(説明)

第 1 1 次総合計画及び第 2 期鳥取市創生総合戦略について・・・資料 4

(意見交換)

○児嶋会長

まちづくりの 3 つの目標について、鳥取市が今後 10 年間どういうビジョンになったらいいかなどご発言をお願いしたい。

○網本委員

安心・安全のための医療について、保健所も中核市になって管轄になったので、病院の管理についてお願いしたい。病棟の深夜、看護師何人配置かなど決めてほしい。少ないと思う。

■高橋部長

病院に要望を伝えることはできるので伝えたい。

○西山委員

全体的に、政策と施策のバランスはいい。目指す将来像について、鳥取市は暮らしやすいというのを市民は実感しているので、その強みをどう伸ばしていくかである。具体的な施策

のところでもリハリをつければいい。最近感じるのは、災害や異常気象が度々発生してくる。災害対策は計画が遅れないようにしていくのが大事だと思うので、これが重点になると思う。合計特殊出生率は政策誘導で押し上げていくということだが、子育て世代に対する支援や若者定住は、創生総合戦略、基本計画でメリハリをつけていただきたい。

○児嶋会長

水害の話が出て思い出した。事前に水害について疑問に思っていることを事務局に伝えてあるので答えてほしい。

■乾部長

線状降水帯がとどまって降雨量が膨大になった場合にどこまで水没していくのかの疑問や、総合防災マップについて、想定内で作られているので、想定外の物を作らないといけないのではないかと質問をいただいている。大事なのは、降り始めからの雨量ではなく、48時間や24時間の間にどれくらい降ったかなど、定められた時間の中でどれくらい降るのかということである。千代川について、想定最大規模降雨は48時間で508mm、計画規模降雨は48時間325mmである。計画規模降雨を超えると決壊、氾濫の恐れがある。そこに着目していただきたい。ハザードマップについてであるが、氾濫した場合、水につかるのはおよそマップのとおりとなる。ハザードマップは、国の防災専門機関の発表とほぼ一致しており信頼性ある。マップで照会しきれない部分は、本市のHPにピンポイントで示している。自宅、勤務先を知ることができる。

○児嶋会長

総合計画にも想定外のことを入れないといけない。コロナ、災害、これから私は経済危機も起こるであろうと推定している。

○山口委員

目標2の「人が行かい、にぎわいあふれるまち」について、中心市街地で10年働いてきたが、公共交通機関が充実していて、今後住居として多くの人が住むまちになると思う。ただ、街中に空き物件が多い。入る店舗が生活する人のニーズと一致していない。どんな業種が必要なのか、まちの様相を考えないといけない。物販以外の分野で空き物件を活用したいと模索していたが、障壁がある。採光が無い物件、用途変更ができない物件がある。生活に密着した活用ができない。用途変更について規制緩和してもらいたい。

○嶋沢委員

鳥取市人口の将来展望、厳しい数字だと思う。達成には出生数の増加、移住者の増加が必要である。米子市は合計特殊出生率1.71、鳥取市は1.5であるが米子市とどう違うのか。今回の総合計画はいかに人口を増やしていくかが大事だと思う。一つ気になるのは、第10次総合計画の実績、進捗はチェックしておられるのかということ。第11次には毎年度見直しを行うという文言が抜けているが見直しはしないのか。

■高橋部長

米子市について正直なところ分析ができていない。検証したい。日本経済新聞の記事の中に、

合計特殊出生率だけでは測れないという記事もあった。転出を減らして、生まれる人を増やすという取り組みも必要である。分析を試みる。見直しの件だが、毎年実績は検証している。第 10 次総合計画も総合企画委員会で検証中である。第 11 次も毎年見直す予定である。

○嶋沢委員

米子市は出生数も鳥取市に近づいてきている。市民アンケートで、優先すべき施策として若者定住が 2 番目にきている。「ふるさといなか回帰の促進」の施策に入ってくると思うが、若者定住をもっと表に出せないか。若者定住対策が大切である。

○高橋部長

検討する。

○綱本委員

素案の P3 の世帯数が市報で出ている世帯数と違う。国勢調査と鳥取市の定義は違うのか。

■上田室長

ご意見のとおり。住民基本台帳は世帯分離を 2 世帯とする。国勢調査は家ごとに調査票をわたす。色々な計画の策定には国勢調査を使用する。

○綱本委員

定義をきちんと記載してほしい。

■上田室長

承知した。

○国森委員

目標 1、誰もが自分らしくというところで、子どもの教育に力をいれてもらいたい。防災の関係もしっかりと総合計画に入れてほしい。基本構想の素案の出だしにある、SDG s、Society5.0 をふまえて、総合計画を作っていくのか。それとも SDG s だけ別出しで作っていくのか。特に SDG s は誰も取り残されることがないようにとあるがそのあたりはどうか。

■高橋部長

SDG s は検討チームを作っている。総合計画については、各施策ごとのページで、SDG s のどの分野に該当するのか記載していく。17 個のうち多くは、既に取り組んでいることもある。市が行う施策は SDG s のどの目標を達成するためにしているかわかるようにしていく。

○林副会長

「めざす将来像」はとてもいいと思う。構想よりも計画を期待している。市民の期待に応えられるようなものを組み立てていただきたい。

○児嶋会長

最後に林副会長から総括をお願いします。

○林副会長

コロナの関係について、幅広い意見が出た。補正予算がきめ細かくてよいという意見、オンライン授業のこと、都会から地方にくるので住みよいまちとして PR しようということ、若者を移住定住の施策で鳥取にひっぱってもらいたいということ、農業関係の I ターンが多

いので期待したいということ、ウィズコロナ、アフターコロナで新しい生活様式の中で経済もまわさないといけないということ、保育園や高齢者の現状についての意見、嫌がらせや風評被害、但馬の人への配慮についての意見、市の多言語対応や、県と市の医療関係の連携が良かったとの意見が出た。感染者の方への配慮について市民の方への広報が大事である。第11次総合計画については、バランスがよいという意見もあったが、中心市街地の用途変更等の規制緩和や、人口の減少を食い止めること、若者定住、子育て支援、災害対策などの施策が必要であるという意見が出た。

○児嶋会長

最後に市長からあいさつをお願いしたい。

■深澤市長

長時間にわたる会議でのご意見、ご提言に感謝する。コロナの対策として4回の補正予算により、しっかりと事業に取り組む。基本構想は素案の段階、これから多くのみなさんのご意見をいただいて決定していく。基本構想は2021年から2030年まで10年間である。SDGsの目標年次でもある。2025年問題も含まれている。コロナ対策の要素も加わり大きく変わっていかうとしている。鳥取市政の方向性を示す大事な総合計画である。毎年度実施状況を確認する。鳥取市のポテンシャルを生かしながらみんなで力強く進んでいく。長時間にわたり感謝申し上げる。